

会議結果のお知らせ

1 開催した会議の名称

令和6年度第4回岩手県公共事業評価専門委員会

2 開催した日時

令和6年9月24日（火） 13:30～17:00

3 開催場所

エスポワールいわて 3階 特別ホール（盛岡市中央通内丸1-1-38）

4 出席委員

武藤由子専門委員長、石川奈緒副委員長、伊藤幸男委員、清水真弘委員、松林由里子委員
（6名中5名出席）

5 議題等

（1）議事

ア 公共事業の再評価について〈継続審議〉

詳細審議地区3件について、事業担当課から現地調査の内容を含め、詳細な説明があり審議を行った。

その結果、再評価に係る全15事業についての審議が終了し、いずれの事業についても県の評価結果が妥当であり、付帯意見を付さない旨決定した。

■ 専門委員からの主な質疑、意見は次のとおり

【01 農村災害対策整備事業 岩手山麓地区（盛岡市、滝沢市）】〈審議継続〉

質疑、意見等なし

【02 地域連携道路整備事業（地域密着型）主要地方道盛岡環状線 滝向（滝沢市）】〈審議継続〉

（質疑）

今回説明のあった照明の設置状況について、照明間隔は夜間にしっかりと視認ができる状況か。また、曲がり角周辺の視認状況はどうか。それぞれの観点から一般的な状態なのか、しっかりと視認できるように設計されているのか伺う。

（回答）

道路照明に関しては、道路照明施設設置基準で定められており、市街地であれば道路に連続して照明を設置することとなる。なお、今回の滝向工区に関しては、市街地ではないことから「交差点または横断歩道では必要に応じて照明を設置するのがよい」との規定となっていることから、交差点における道路照明という考え方で設置しているもの。

一方、防犯灯に関しては、あくまで防犯の観点で設置するものである。なお、説明した照明の設置間隔100mは、道路照明に防犯灯を含めて概ね100m間隔で照明が設置されているという意味である。

（質疑）

防犯灯の明るさは道路照明と同じ程度か。かなり暗いか。

（回答）

道路照明と比較して、設置位置が低く、明るさも暗いと考えている。

（意見）

現地調査の際、事故のあった横断歩道をドライバー目線で想像したところ、横断歩道が急に目に見えるのではないかと感じた。今回の事業で、歩道が両側にできて、車幅も広がって見通しがよくなるので、少し改善されるかなと感じた。横断者のリスクが減るので事故が起こる可能性も下が

と思う。

【03 総合流域防災事業（地すべり） 一級河川北上川水系 八幡平（八幡平市）】〈審議継続〉
(質疑)

現地調査を予定していたが、(前日の豪雨被害のため)叶わなかった事業である。植生について、工事の際に一部攪乱されるが、周辺で回復が確認されているということでしょうか。

(回答)

作業ヤードも含めて、どうしても一部伐採等が必要な部分もあるが、その後の植生の回復については森林管理署とも相談をしながら行っている。あえて植生工などは実施せずに、在来種の回復を見守るということで進めてきており、現時点でその状況で問題ないと考えている。

イ 公共事業の事後評価結果の報告について

次の2件について報告を行った。

- ・経営体育成基盤整備事業 六原地区（北上市、金ケ崎町）
- ・(プロジェクト構成事業) 港湾改修事業・港湾施設整備事業 大船渡港 永浜・山口地区（大船渡市）

【01 経営体育成基盤整備事業 六原地区（北上市、金ケ崎町）】

(質疑)

スライド 14 ページの利用者等の意見のうち、最後の「排水路整備により、雨水等が流れやすくなった」という意見は、水はけがよくなって道路の冠水などが少なくなった、という良い点のことを言っているのか。

(回答)

そうである。事業実施前は、用排水が兼用の土水路で、浅くて断面も小さかったものが、深くなり流れやすくなったという意味である。

(質疑)

ただ、「いいえ」の意見の方も5%と、複数人いらっしゃるが、共通されている理由はあるか。

(回答)

こちらの「いいえ」という意見に対する分析については、特に行っていない。

(質疑)

アンケートで「いいえ」と答えた方で、特に具体的な意見を書いた人はなかった、ということか。

(回答)

具体的な意見については、各設問において「いいえ」とした理由として記載されているものではなく、全体の自由記載欄に書かれているものである。

(質疑)

それぞれの項目に自由記載欄があるのではなく、全体としての自由記載欄に書いているということか。

(回答)

そうである。

(質疑)

16 ページ、「用排水路の維持管理が楽になりましたか？」との設問に対して「いいえ」と答えた方の理由について、「草刈り作業に労力がかかることによるものと考えられる」といったような考察が記載されており、ほかのページにおいても記載されている。それらは実際ヒアリングしているのか。

(回答)

アンケートのほかに、大きな法人などを抽出してヒアリング等も行っており、そういった場に出てきた話題の一つである。

(意見)

各項目で「いいえ」であった設問については、なぜ「いいえ」だったのかしっかりと理由を聞いておいたほうが、今後同じような事業をする際のいい情報になる。書いていただけるかどうか、と

いうことはあるが、一つ一つ理由を記載していただいた方が、一人ひとりヒアリングなどをするより楽にできるので、その情報は収集してもいいのかなと思う。

(質疑)

水田を汎用的に、畑としても使っていくということで、9ページで大豆の単収が増加しているところがあるが、農家の収入が上がったということを知っているか。

(回答)

収入に関しては、アンケートやヒアリングまでは実施していない。

(意見)

収入を聞いていいかわからないが、効率よく生産できることで農家の収入が上がることが大切なので、情報が収集できて、それが目に見えるとより良い評価ができると思う。収入に関する質問をして評価に生かしていくよう検討願う。

(回答)

ありがとうございます。

(質疑)

大豆の単収が1.5倍というのは評価項目として大きいと思うが、水稻や大豆、野菜類の質の向上を評価できるものか。

(回答)

品質等に係る評価のアンケート等の調査を実施していないため、この地区についてそういったデータは持ち合わせていない。

(質疑)

お米は等級の話聞くが、大豆やその他の作物には指標はあるのか。

(回答)

等級はあると思われる。

(意見)

利益とか品質となると、天候などの影響が反映されやすいので、単収が一番シンプルに事業の評価を反映できるのかなとは思っている。今回、平成20年と令和5年の単年ずつの比較なので、もう少し長い目で見ると必要があると思う。

(質疑)

6ページのスライドで、整備後の農道ののり面は、やはり大きくなっているのが写真を見てわかるが、ここの草刈りをする方は毎年一緒であるか。

(回答)

そうである。道路、排水路も隣接している方に任せているのが実際のところである。

(質疑)

田んぼが近くにある方が毎年やることになる、ということか。

(回答)

そのとおりである。あるいは、今はその方が主流になっているが、大きくやる場合には地域でまとまってやる場合もある。

(意見)

水路を整備すると、のり面の管理は大変になるが、スマート農業などが進み、草刈り機の整備などで楽に作業できるようになることを期待したい。

【02 (プロジェクト構成事業) 港湾改修事業・港湾施設整備事業 大船渡港 永浜・山口地区 (大船渡市)】

(質疑)

29枚目のスライドに関して、林業関係で国内需要が落ち込んでいる丸太の出口として気仙沼港の原木輸出の引き合いが増えているということを知っており、この地区でも取扱いができるようになれば、県内の林業関係者にとって非常に朗報と思う。まだ、ここから輸出するという状況までは至っていないのか。

(回答)

現時点で大船渡港では原木輸出の取扱いをしている。気仙沼港の話は知っているが、県内でも大船渡港に限らず、久慈港や釜石港でも輸出量が伸びており、主に中国向けの建材と伺っている。

(質疑)

30 ページにポートサービス船などの利用が増加すると考えられる、と書かれているが、もともとこの小型船だまりを利用するのは漁船をメインと考えていたのか。工事前の7ページの写真を見ると、漁業のいかだが見えて、もともと漁業が盛んであった場所で、今も漁船がこちらの小型船だまりを利用している状況か。そして、ポートサービスというのは大型船の水先案内人のような船の利用という意味でよいのか。

(回答)

漁船も対象とはなっているが、工事などで使う作業船、役所、警察、海上保安庁の官庁船、あとはポートサービス船といって、貨物船に乗っている乗組員や荷物の輸送などを行う船を対象としている。

(質疑)

35 ページ、今後の課題等の最後の②、事業評価指標の見直し必要性、のところで、「事業目的が同じであり、事業個所が近接し」というのは、今回のケースが当てはまっているということか。

(回答)

そうである。今回、5つ分の事後評価事業調書を作成しているが、整備目的としては3つであり、3つくらいで済ますことができたのではないかと考えている。

それぞれの調書を見ていただくと、社会情勢など、同じような内容が記載されており、整備目的や開始時期などが同じ事業であれば、同一の事業評価としてを進めることもできるのではないかとということで、見直しの必要性の検討について記載したところ。

(質疑)

それぞれ開始時期など異なると思うが、いずれかの段階で事業評価を一つにまとめていくことができるということか。

(回答)

色々取り決めもあると思うが、そういった検討もできるのではないかと考えている。

(質疑)

今後の課題で、用地の利用、I L Cに絡んで説明があったが、I L Cの誘致が決まるまでは、利用できないということかもしれないが、決定までの間、例えば年契約であったり、地元の企業限定であったり、特定の条件を設けて、それまでの間有効利用する案は検討しているか。

(回答)

説明した中でいうと、永浜・山口地区は風力発電の部材だとか木材の輸出だとか、スポット的に出てきている仕事をここで扱っており、本来の目的である茶屋前地区の貨物を持っていくことはできていない。

茶屋前地区や野々田地区も荷物を置くところがないくらい窮屈になっており、永浜・山口地区ではI L C計画の動向を見ながら、スポット的に出てきた貨物の際に利用している状況である。

(質疑)

一般に広く募集する、というより、都度申請があったときに県として利用の可否を決定しているということか

(回答)

そうである。

イ 公共事業及び大規模事業の事後評価実施計画の策定について

資料 No. 5 により、実施計画策定の方針及び概要を説明し、本方針に沿って実施していくことと決定した。

(質疑)

106 ページの選定方針で、農業農村整備事業の一番下の項目の規模の大きい地区(総事業費 50 億円以上)及び小さい地区は除外ということだが、小さいほうを除外というのは意味が分かるが、大きいほうの除外の理由というのは、どのようなものか。

(回答)

こちらの事業について、大規模公共事業の要件に当たっており、優先する事業として、公共事業評価からは外して、大規模の方で選定をしていくということである。

(質疑)

表の見方について、108 ページの関連資料 1 の一番下は、大規模施設整備事業だが、ここに入ってくる項目は、毎回大規模事業事後評価で検討するというのでいいのか。「大」という文字があるものとなないものがあるようである。

(回答)

そのとおりである。一番下の大規模施設整備事業について、いずれも大規模事業の評価で行うこととなる。

(2) 会議資料

資料 No. 1 令和 6 年度公共事業評価地区 位置図 (再評価・事後評価)

資料 No. 2 令和 6 年度公共事業評価専門委員会の審議概要

資料 No. 3 令和 6 年度公共事業再評価 継続審議資料

- ・農村災害対策整備事業 岩手山麓地区 (盛岡市、滝沢市)
- ・地域連携道路整備事業 (地域密着型) 主要地方道盛岡環状線 滝向 (滝沢市)
- ・総合流域防災事業 (地すべり) 一級河川北上川水系 八幡平 (八幡平市)

資料 No. 4 令和 6 年度公共事業事後評価調書及び説明資料

- ・経営体育成基盤整備事業 六原地区 (北上市、金ヶ崎町)
- ・港湾改修事業・港湾施設整備事業 大船渡港 永浜・山口地区 (大船渡市)

資料 No. 5 公共事業及び大規模事業の事後評価実施計画の策定について

参考資料 公共事業の再評価に係る答申書 (案) 及び審議結果報告 (案) について

※ 会議資料及び会議録については、行政情報センターへ配架するとともに、県のホームページに掲載します。

6 傍聴人数

一般 0 人 報道 1 社

7 問い合わせ先

〒020-8570 盛岡市内丸 10 番 1 号

岩手県政策企画部政策企画課 TEL : 019-629-5181 FAX : 019-629-6229

8 アドレス

<https://www.pref.iwate.jp/kensei/seisaku/hyouka/koukyouhyouka/1075004/1078242.html>

9 その他

政策等の評価について御意見がありましたら、上記問い合わせ先まで FAX 等でお寄せください。今後の専門委員会での審議の参考とさせていただきます。